



紫雲児の心

10月3日の全校朝会では、夏休みに実施された新発田市の平和学習に参加した代表生徒の感想発表後に、写真で平和学習の様子を紹介しながら次のような話をしました。平和について考えるきっかけにするとともに、身近な生活の中でも生かして行ってほしいと思います。

校長 五十嵐 めぐみ

新発田市は平成9年に平和都市宣言と人権擁護都市宣言をし、一人一人の人権が守られる平和な町づくりを進めています。その一環で、中学生を広島や長岡に派遣して平和について学習する事業など、様々な取組を行ってきました。昨年度と一昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となりましたが、今年度は3年ぶりにこれらの事業が実施され、3年生の間藤海秀さんと本間花音さんが、紫雲寺中学校の代表としてそれぞれの事業に参加してきました。

間藤海秀さんが参加した広島平和学習は、8月5日から2泊3日で行われました。メインは6日の平和祈念式典への参加ですが、その他にも原爆資料館や原爆ドーム、原爆の子の像、記念式典の日の夜に行われた灯籠流しの見学など、多くの貴重な体験を通して、戦争と平和についての考えを深めました。8月10日に新発田市生涯学習センターで行われた「しばた平和のつどい」にも参加し、広島派遣の感想を発表しました。今年度のつどいでは、「原爆の子の像」のモデルになった佐々木禎子さんのお兄さんである佐々木雅弘さんから、直接お話を伺うことができました。

本間花音さんが参加した長岡平和学習は、8月12日に行われました。長岡の戦災資料館を見学し、空襲を体験した方からお話を聞いたり、ガイドさんのお話を聞きながら市内を見学したりしました。私は長岡出身ですが、長岡花火は、8月1日の長岡空襲の犠牲になった方々を慰霊し、戦争のない平和な社会をみんなで創っていこうという想いで始まりました。その後、中越地震で多くの被害を受けた長岡。それでもくじけず、町を復興させようと、フェニックス花火が打ち上げられるようになりました。長岡花火には、平和への想いが込められているのです。そして、広島の人たちも、原爆投下により壊滅した広島を、みんなで力を合わせて復興しました。

私も、引率として広島へ行きましたが、平和祈念式典で、子ども代表として平和の誓いを述べた小学6年生2名の「過去に起こったことは変えられません。しかし、未来は創ることができます。」「けんかも戦争も、自分の考えを押しつけ合うから起きるのだと思います。話し合いが大切です。」という言葉が心に残っています。この「平和への誓い」は、広島の小中学生たちが時間をかけて話し合い、内容を決めたのだそうです。皆さんより年下の小学生たちが、しっかりと考えているのです。

戦争は最大の人権侵害です。人々の人権が守られる平和な世界を創るために、私たちにもできることがあります。戦争の悲惨さ・愚かさを知ること、それを多くの人に伝えること、そして、どう行動すれば良いかを考え、実践することです。戦争は、遠い過去の出来事ではありません。今も、世界では戦争が起こっています。昭和20年の8月には、広島と長崎以外にも原爆を投下する計画があり、新潟も候補地に挙げられていたそうです。もしもあの時、新潟に原爆が投下されていたら、どうなっていたでしょうか？そして、もしも今、世界のどこかで核兵器が使われたら…？

戦争をするのは人間、やめるのも人間です。けんかやいざこぎも同じです。広島の子ども代表の小学6年生児童が言うように、未来は創れます。そして、未来を創るのは、私のような年寄りではなく、皆さんをはじめとする若い人たちです。戦争を「過去のこと」「自分には関係ないこと」と思わずに、戦争のない平和な未来を創るために、自分にできることを考え、実行していきましょう。